

大 ぞす

広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されている卒業生の方々に、
現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。

とよた・しょうご／1996年に広島大学総合科学部を卒業し、株式会社リクルートコンピュータプリントに就職。その後、人材育成会社へ。2009年に島根県海士町へ移住し、高校魅力化プロジェクトの立ち上げに参画した。現在は海士町役場で学びづくり特命官を務める。



総合科学部 出身
豊田 庄吾 さん

島根県海士町役場
学びづくり特命官

人とのつながりを大切に 広島から東京、 そして隠岐・海士町へ

学生時代は、1年生の交流の場であつたオリエンテーションキャンプ存続のために活動したり、サークルを立ち上げたりしていました。エネルギッシュな仲間と共に広島で面白いことをしようと動き続けた経験や、活動を共にした友人と強いつながりを持てたことは、大きな財産になったと感じます。

隠岐への移住も友人とのつながりがきっかけです。それまで私は東京で人材育成の仕事に就き、企業や学校向けに研修や授業をしていました。東京の恵まれた環境に身を置く自分が、地方の方に「地方でも挑戦すれば必ず成果が出る」と伝えて

も、言葉が軽いんじゃないか、どこか厳しい環境で挑戦してみたいと思うようになりました。そんな時、海士町にある廃校目の前の高校を立て直す仕事を頼まれたのです。

学校を核とした地域づくり 島で育った若者が、 地域の未来を拓く

統廃合寸前の島の高校を再興するためには、本当の意味で教育をより魅力的にしていける必要がありました。そこで私は、島の高校や地域と連携した公立塾を設立。受験のための勉強だけでなく、自分の頭で考える力や行動力を育む教育は、島内はもちろん全国から注目されました。全校で89人だった生徒数も約2倍に増加。現在ではブータンやドバイからも入学希望者が集います。島の高校生は、地域の課題

を解決すると目の前の人喜び、それが社会を動かすことにつながると経験的に学びます。こうした学びを生かし、自ら考えて行動できる人に成長してほしいです。

現在は、離島した島民が再び戻りたくなるような島を目指し、役場に身を移して「大人の島留学」という企画を仕掛けています。これからも島の振興につながる、大きな人の流れを作りたいです。

広大のここがええね!

上級生や学部長に掛け合うなど、存続のために奮闘したオリエンテーションキャンプ。学部を超えて魅力的な仲間と出会い、広島大学で頑張ろうと思う契機になった大切なイベントです。